



INTEC
in
Silicon
Valley

シリコンバレーの 革新を日本へ

インテックは、米国の最先端サービスを取り込んだ日本市場における新事業インキュベーションを目的に、2015年7月、シリコンバレーに現地法人 INTEC Innovative Technologies USA, Inc.(以下 INTEC I.T.) を設立いたしました。シリコンバレーに拠点を開設しグローバルな視点で技術シーズや新商品の発掘を推進し、様々なスタートアップ企業との協業関係の構築などの活動を通じて、将来のインテックを支えるような最先端 IT を活用した新規事業の創出を目指します。

ベンチャーキャピタルの 巨額投資

シリコンバレーにおけるベンチャーキャピタル (VC) 投資は、2008年にリーマンショックのあおりを受け縮小したものの、2015年は273億ドル(約3兆円)にまで回復し、ネットバブルと言われた2000年に次ぐ投資額となりました。

資金が集まる背景には、この地域のソフトウェア産業の台頭が挙げられます。1995年のVC投資に占めるソフトウェアの割合は15%に過ぎませんでした。直近3年間は平均45%強、2015年は50%強へと膨らんでいます。こうしたシリコンバレーの投資拡大はしばらく続くと考えています。ソフトウェア産業の勢いは一向に衰えを見せず、Apple、Google、Microsoftなど大手の一角をなす企業は依然活発な動きを示しています。また、FacebookやTwitterは今や生活に欠かせないコミュニケーションツールへと成長し、さらに専用アプリケーションを通じてオンライン配車サービスを展開するUber(ウーバー)や自宅など

を宿泊施設として提供するAirbnb(エアビーアンドビー)など、共有による便利さと豊かさを提供する新たなサービスの登場もソフトウェア産業の勢いを象徴していると言えるでしょう。

変革の潮流を形作っているのは既存のソフトウェア産業だけではありません。2012年、ハードウェア製造と保守サービスを手掛けていたアメリカ産業界の雄、General Electric Company(以下GE)が『今後、製造業はすべてソフトウェアの会社にならなければならない』と宣言し、シリコンバレーにGEデ

シリコンバレーにおけるVC投資額推移



出典:ベンチャーキャピタル協会(NVCA: National Venture Capital Association)、2016年

デジタルというソフトウェアの研究・開発拠点を設けたことで変革の流れに一層の拍車がかかりました。伝統的な製造、保守サービスだけではソフトウェア産業の勢いに対抗していけないという危機感がGEに大きな決断をさせたわけです。

こうした巨額の投資は世界中の国々から人材と企業を呼び寄せています。シリコンバレーの人口の35%以上とも言われる外国人たちが、どれほど多くの国と地域から集まってきているのかは、社会保障番号取得手続きが英語、スペイン語、中国語をはじめとする多様な言語に対応していることから知ることができます。多種多様な文化圏の人たちの触れ合いが、既成概念を超越した斬新なアイデア、新しい技術、サービスを生み出す原動力になっています。

このようにシリコンバレーでは産業界の雄をも巻き込んで、投資、企業の進出、事業の成功、そして次の投資という好循環を繰り返すことによって最先端の状態を維持し続けています。

シリコンバレーの革新を日本へ

GEはソフトウェア産業への進出を機に、従来から製造している機器にセンサーを取り付け、インターネット経由で取得した様々なデータを顧客サービス向上に活かすIIoT (Industrial Internet of Things) という考え方を打ち出しました。これは、ハードウェアとソフトウェアを融合させることで、販売した機械設備の保守・修理を効率化するだけでなく、機械設備の稼働を最適化し、生産性の向上やコストの削減といった顧客の価値を創出するための取り組みです。

IIoTの可能性はそれだけにはとどまりません。IIoTの活用は、収益の向上、イノベーションの促進、ワークスタイルの変革など企業のみならず、私たちの生活に、そして社会全体に大きな変革をもたらす可能性を秘めて



INTEC Innovative Technologies USA, Inc.
480 Cowper Street, Suite 300, Palo Alto, CA94301 USA
TEL : +1(650)843-9104

います。IIoTは今まで想定しなかったような大きな成長の機会になり得るとINTEC I.T.は考えています。

現在のシリコンバレーでは、金融分野に革新を起こすと言われていたFinTech^{*1}もホットな話題のひとつです。

これまでの金融ITは、安全性と安定性を最優先し保守的な対応を進めてきましたが、社会全体が大きく変化するなか、金融ITもこの大きな変革・潮流に合わせて自ら変革を起こす必要があります。現在INTEC I.T.は、ブロックチェーン^{*2}技術を用いて金融システムを構築し、その実証実験を開始しました。さらに、FinTechを実現するための技術として語られることが多いブロックチェーン、スマートコントラクト^{*3}ですが、金融だけでなく、他産業への応用ができると考えて調査研究を進めています。

また、技術が進歩することで新しいビジネスが生まれ、そのビジネスの周辺にさらなるビジネスが生み出されます。例えば、センサーや機械学習 (Machine Learning) ^{*4}の技術によって自動運転が実現されれば、動的な地図、高度なセキュリティシステム、新たな保険制度などこれまでになかったしくみが多数生み出されます。

シリコンバレーでは、大手企業とスタートアップ企業が競争、協調し合いながら変革のための創意工夫と社会実験を繰り返しています。シリコンバレーならではの切磋琢磨の環

境に身を置くことで、緊張感を持って個々の事例を深く分析し、その企業関係者とディスカッションを繰り返すことで、日本に居ては得ることが難しい知見、気付き、アイデア、ひらめきを得ることができます。またシリコンバレーは、ビジネス領域はもちろんのこと、日常生活のありとあらゆるシーンから幅広くイノベーションの可能性を捉え、商品・サービスに展開させる発想力とバイタリティーにあふれています。シリコンバレー特有の熱量を直接肌で感じられる毎日は大変刺激的です。メディアの情報でシリコンバレーをある程度理解することは可能だと思いますが、実際に足を踏み入れ、スタートアップ企業やVCの関係者と会話をすることで、ITの聖地シリコンバレーのスピードと革新を是非体感していただきたいと思います。

今後も10年先の技術の動向と社会の変化を

見据え、INTEC I.T.は、インテックが蓄積してきたインフラ構築と運用技術、行政、公共、金融、流通、製造などの業界知識、そして自社のロボティクスや機械学習などの先端技術にシリコンバレーで得た知見を加え、技術研究に取り組んでまいります。

※1 金融を意味する「Finance(ファイナンス)」と、技術を意味する「Technology(テクノロジー)」を組み合わせた造語。金融業にIT技術を応用し、新たなサービスやビジネスを生み出す技術や取り組みの総称。

※2 複数のコンピューターにデータを分散させ、データ改ざんをほぼ不可能にするしくみ。金融とITの融合によって新たなビジネスモデルを生み出すFinTechを実現するための中心的な技術。

※3 自動実行される契約のこと。ブロックチェーン技術によって契約締結の際に管理者を必要とせず、高度なセキュリティを担保しながら契約を締結すること。

※4 人間の学習能力と同様の機能をコンピューターで実現しようとする技術および手法。

Column

交通渋滞 — DIYでハッピーに —

シリコンバレーに住み始めて数ヶ月。インターネット上でも様々な生活や文化の違いを知ることができますが、やはり実際に現地で生活することで初めて実感することがあります。「通勤時の渋滞」も、その一つです。

「車社会」と「シリコンバレーブーム」という組み合わせは、広大な土地を持つアメリカとは思えないほどの通勤ラッシュをシリコンバレーに発生させています。普段の通勤には高速道路を使うのですが、Freewayの名の通り料金は不要です。そのかわり道は穴だらけ、雨が降れば水に弱いアスファルトでタイヤが想像以上にスリップしやすくなります。そのためパンクや事故が日常茶飯事となり、渋滞を更に深刻なものにしています。

このように、アメリカには至る所に“生活の不便”が転がっていますが、シリコンバレーではこの不便さを解消すべく自分たちで模索するという光景がよく見られます。渋滞対策としては、Googleに買収されたWaze(ウェイズ)というアプリケーションが普及しています。普段はナビとして使うのですが、渋滞や道路不備、警察を見かけたらSNSの機能で簡単に通知できるようになっています。この通知がリアルタイムで連携され、ナビ上の地図に表示されて注意を促したり、ナビルートを変更したりできるのです。Wazeには広告も表示されるのですが、注目すべきは集めたデータをGoogleや行政などの第三者が活用できるしくみを提供していることです。Googleはさらなるデータ分析に活用し、行政は都市計画に利用、そしてWazeの利用者がさらに増えると

いう好循環を生み出しています。

生活する上での不便に着目し解決する手段を開発(ソリューション)、それを継続させるためのビジネスモデルを模索し、その結果、全員がハッピーな方向に向かっているわけです。DIY(Do It Yourself:自分でやる)精神、これこそがシリコンバレーと日本との違いだと感じています。日本は、イノベーションを起こすにはひと工夫が必要なのかもしれません。

INTEC I.T. COO 坂田 繁明



シリコンバレーで日常的に発生する通勤渋滞